

令和6年3月15日

令和5年度 世田谷区立笛原小学校 学校自己評価報告書

さくらの学び舎 世田谷区立笛原小学校

校長 大場 一輝

1 本校の目標及び計画

(1) 教育目標

○よく考え くふうする子 ○やさしく 助け合う子 ○明るく たくましい子

(2) 重点目標

I 「主体的な学びを通して思考力・判断力・表現力の育成」

II 「多様性を認め合い、よりよい集団をつくる子どもの育成」

III 「自分の健康に関心をもち、よりよい生活をつくる子どもの育成」

(3) 学校経営方針 【参考資料1参照】

2 学校概要

○校長名 大場 一輝

○学級数 通常の学級：15学級 弱視通級指導学級：1学級 計16学級

特別支援教室（すまいるルーム）拠点校

○児童数 452名 *令和6年3月1日現在

○学校の特色

縦割り班活動（笛の子班活動）、元気タイム、あいさつ週間、運動週間、思いやりの木などを通して、子どもたちの心と体を育てることを大切にしています。

○学校ホームページアドレス <http://school.setagaya.ed.jp/saha>

*以下、自己評価を実施した視点に沿って、成果と今後の取組を示します。

3 「重点目標」についての評価

(1) 重点目標 I :「主体的な学びを通して思考力・判断力・表現力の育成」

●具体的な子どもの姿

- ・『めあて』をもって学習し、『振り返り』を次の学習に活かそうとしている。
- ・自ら考え、友達と共有し、自己の考えをまとめ、深めている。

●成果と今後の取組 ◆：成果 ◇：今後の取組

◆教師が「めあて」を提示したり、子ども一人一人が自分の「めあて」を設定したりして学習に取り組んでいる。また、学習の最後には「振り返り」を行い、自己の学習の状況を見つめ、次の学習につなげる「めあて学習」に学校全体で取り組んでいる。

◆3月に全校で実施した子どもアンケートでは、「めあて学習」の達成状況について

「よくあてはまる」「あてはまる」と89%が肯定的評価をしている。

◆学校評価アンケートの保護者アンケート「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている」の肯定的評価は59.9%、「分からぬ」の回答も14.6%であった。

◇引き続き、思考力・表現力・判断力の育成を図る授業づくりに努めるとともに、保護者による授業参観等を実施し、子どもたちが学ぶ姿にふれる機会を設定する。

◇主体的・探究的な学びの充実を目指して、今後も「めあて学習」を推進していく。また、学習中の教師の声かけを工夫し、子ども一人一人の活動の価値付けを行う。

◇特に、次の学習につなげるための「振り返り」を大切にした授業を進める。

(2) 重点目標II:「多様性を認め合い、よりよい集団をつくる子どもの育成」

●具体的な子どもの姿

- ・元気よく友達や家族、地域の方々や教職員にあいさつをしている。
- ・相手の立場を理解し、美しいことば・思いやることばを使っている。
- ・相手の立場を尊重し、よりよい学級・学年集団をつくろうとしている。
- ・笹の子班活動、委員会・クラブ活動のよさを理解し、協力してよりよい活動にしている。

●成果と今後の課題 ◆: 成果 ◇: 今後の取組

◆「人格の完成を目指して」の取組、毎月の「あいさつ週間」の取組を中心に、日常の学校生活の中でもあいさつを大切にした取組を行ってきた。

◆3月に全校で実施した子どものアンケートでは、あいさつの達成状況については「よくあてはまる」「あてはまる」と肯定的評価をしたのは83%である。毎月の「あいさつ週間」の後、全校で一人一人が「振り返り」を行い、集計結果を子どもたちにその都度返したこと、あいさつへの意識が高まったと考えられる。

◆学校評価アンケートの保護者アンケート「本校には、多様性を認め合う雰囲気がある」の肯定的評価は46.8%、「分からぬ」の回答が17.8%であった。

◆学校評価アンケートの保護者アンケート「笹の子班活動は、子どもたちにとって有意義な活動であると思う」の肯定的評価は、80.2%、「分からぬ」の回答が12.1%であった。

◇来年度も毎月「あいさつ週間」を設定して取り組み、「振り返り」を通して自主性や意欲を高めるとともに、誰にでもあいさつができるよう指導を継続していく。また、相手とのコミュニケーションの第一歩であることを受け止めさせ、あいさつをより日常化し、相手を思いやることのできる子どもたちの育成につなげていく。

◇多様性を認め合う意識を高めるため、学校生活や学習活動の様々な場面を通して指導を継続するとともに、よりよい集団づくり・よりよい活動づくりを通して自己実現を図ることができるよう支援する。

◇相手を思いやることば・美しいことばの理解を深めさせ、全教育活動を通して取り

組む。

(3) 重点目標Ⅲ：「自分の健康に関心をもち、よりよい生活をつくる子どもの育成」

●具体的な子どもの姿

- ・すすんで体を動かしている。
- ・早起きをする・朝ごはんを食べるなど、朝から心も体もスイッチ・オンで毎日の学校生活を始めている。
- ・感染予防の意識をもち、新しい生活様式の中で、適切に検温・マスク着用・手洗いなどを行っている。

●成果と今後の取組 ◆：成果 ◇：今後の取組

◆年間を通して、元気タイム（学年・学級遊びと長縄跳び）や運動週間を実施した。

◆3月に全校で実施した子どものアンケートでは、「すすんで体を動かして遊んでいる」と肯定的な回答した子どもの割合は92%であった。全学年で良好な達成状況である。また、昨年度同様に達成状況が高く、体力向上・健康増進に関心をもっていると考えられる。コロナ禍を経て、すすんで運動しようとしている子どもが多くなっている。

◆「快眠・快食・快運動（世田谷3快プログラム）」の推進と意識化を図るため、全校朝会での講話、保健指導や食育学習、健康観察カードなどを活用し、繰り返し働きかけたことで、健康な生活の実現につなげることができた。

◆学校評価アンケートの保護者アンケート「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」の肯定的評価は66.9%で、「分からぬ」の回答が7.6%であった。

◇子どもたちの「運動したい」「体を動かして遊びたい」という欲求を充足させ、適切な運動習慣を身に付けさせるため、教科体育や休み時間等を含めて、運動の機会を設けていく。

◇健康な生活を維持するためには、「睡眠・食事・運動」がバランスよく保たれることが大切であること、また、学校給食の意義を踏まえ、栄養バランスの取れた食事の大切さについて、引き続き指導する。

◇自分の健康についても関心をもてるよう、日常の学級指導、保健指導や保健学習などを通した指導を継続する。

【補足説明】

重点目標の具体化へ向けて、学期ごとに各学年・専科の7グループで、育てたい姿や取り組みたい活動を「具体的な取組」として設定し、その達成状況や取組状況を振り返り、次の学期につなげる取組も進めました。また、設定した「具体的な取組」については、学年だより等で保護者にお知らせし、生活や学習の中での

指導につなげました。

4 「地域との連携・協働による教育」についての評価

- (1) 保護者との連携・相談に丁寧に対応してきた。今後もより一層取り組んでいく
- (2) コロナ禍の制約を経て、5類感染症となった今年度は、教育活動に、小1 サポーターや学校生活サポーター、キャリア教室等で、保護者・地域の人材を積極的に活用してきた。学校運営委員会を年間1回開催し、3部会（学習支援、環境安全・地域連携、健全育成）を構成し、委員の方々と協議してきた。また、学校運営委員会だよりを毎回発行し広報したことで、学校運営委員会の活動をより広く伝えることができた。今後も広報活動を継続していく。

5 「『キャリア・未来デザイン教育』で実現する質の高い教育活動の推進」についての評価

- (1) 「キャリア・未来デザイン教育」の推進に向けた3つの「しんか」（進化・真価・深化）を意識して取り組み、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、目標や内容を明確にした授業、学習用タブレット端末やICTを活用した授業、言語活動の充実を図る授業、個に応じた指導を大切にした授業を行ってきた。今後も、1時間1時間の学習を大切にした授業づくりを目指し、より効果的な指導が展開できるよう工夫・改善を重ねていく。
- (2) 子どもたちには、本校独自の「笛の子スタンダード」を基に、基本的な生活の約束や学校のきまりを共通指導してきた。また、生活指導上の課題については組織的かつ迅速に取り組み、さらにスクールカウンセラーとの連携も図り、子どもたちの育成に取り組んできた。今後も組織的な対応の中で、子どもたちの育成に取り組む。
- (3) 学校行事は、感染対策を講じ創意工夫する中、子どもたちの充実感や達成感を重視して実施してきた。校外学習は様々な制約がある中での実施となつたが、今までできることを工夫し、予定通り実施することができた。今後も、全教育活動との関連を図り、主役である子どもたちのための学校行事や校外学習を実施していく。
- (4) 体力向上・健康教育の取組については、全校で計画的に取り組み、成果があつた。毎月の元気タイム、縄跳びや持久走週間、食育の取組は予定通り実施できた。継続していく。
- (5) キャリア教育で活用する「キャリア・パスポート」では、笛原小学校版のパスポートを作成・更新し、毎学期の目標設定とその振り返り、笛の子班活動の記録、行事や地域活動などに関する記録を進めてきた。「キャリア・未来デザイン教育」の取組の一つとして、今後も充実させていく。
- (6) 「さくらの学び舎」は、保幼小中の教員や保育士の合同研修・授業参観を年間

3回の学び舎の日を活用して実施し、交流を図ることができた。また、児童・生徒交流についても年間計画に基づき実施でき、実りのある交流の機会にすることができた。その様子を「学び舎通信」として年間3回発信することができた。今後も、一層の連携・交流を図り、学び舎の活動について保護者・地域へ情報発信を進めていく。

6 「信頼と誇りのもてる学校づくり」についての評価

- (1) 学校経営方針に基づき、教職員が「チーム 笹原」の一員として組織的・協働態勢で、また一人一人が主体的に学校運営・教育活動に当たってきた。今後も課題解決へ向け組織的に取り組むとともに、子ども・保護者・地域からの信頼をしっかりと得られる学校づくりに全力を尽くす。
- (2) 服務規律への自覚をもち、服務事故防止研修を年間2回実施するとともに、日頃から法令順守を図る中で教育活動を推進し、子どもたちの指導に取り組んできた。子どもたちを預かる学校としての使命と責任を常に意識し、信頼と誇りを得られる職務遂行を目指す。
- (3) 避難訓練と安全指導を毎月実施し、子どもたちの安全性を高めるとともに、事故や災害時に迅速に対応できる体制を整備してきた。今後も、子どもたちの事故防止や緊急時の対応などを徹底し、安心して学校生活を送ることができるよう努める。
- (4) コスト意識を常にもち、学校予算の執行・資源の有効活用を進めてきた。今後も、学校予算や資源の効果的な利活用を進める。
- (5) 個人情報の管理については十分に留意するとともに、適切で確実な管理・運用に努める。
- (6) 保護者会と個人面談は、年間計画通り実施した。学校公開については通常型で実施し、土曜授業日の授業公開も行った。また、今年度は、今まで以上に学校ホームページの内容を充実させ、教育活動の様子と学校情報の発信に努めた。今後も、情報発信手段の一つとして、より活用していく。

7 「安全安心と学びを充実する教育環境の整備」についての評価

- (1) 施設・設備の適切な管理、及びその定期点検に取り組んできた。改修や改善を要する事項については迅速に対応し、教育活動に影響が生じないよう、整備に取り組んだ。今後も継続するとともに、施設・設備の安全性の確保へ向け、改修・改善等の要望を行っていく。

8 まとめ

- 笹原小学校に「誇り」をもち、「学校生活が楽しい」「学校が好きである」と感

じる子どもたちを育てていくことは、最大の使命・責務であると考える。その基盤となるのは、子ども・保護者・地域からの「信頼」である。そのため、保護者・地域とともに連携・協働し、学校全体に 活気があり、教育活動への満足度を得られ高められる「信頼と誇りのもてる学校づくり」を進めていく。